



元気通信

ブダペスト日本人学校

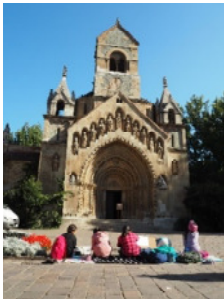
学校だより

平成27年 9月24日号

【音楽教室について】(音楽担当 坂井)

金管楽器トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバによる音楽教室が行われました。オペラ座で演奏している方々による説明や演奏によって、実際の大きさやその音色を体験することができたようです。ハンガリー滞在期間中に、一度はオペラ座に足を運んでくれる子ども達が増えるといいなと思います。

- ホルンの朝顔のところに手を入れたら音がしないと思っていたのですが、じっさいにきいてみたら音になるということを知りました。わたしは、カルメンが大すきなので、金かんがつきの方がひいてくれてうれしかったです。たのしくて元気になるきよだからです。(小2 山岸美陽)
- 最後のオペラのきよくでは、とってもはくりよくのある牛とゆうきのある人が、たたかいにいどんでいることが頭にうかびました。(小3 山本新菜)



【アートフェスティバルを終えて】(図工・美術担当 甘利)

3年生以上の子どもたちは各活動場所において描く対象を自由に選び、それぞれに工夫を凝らしながら作品作りを夢中でしていました。1・2年生は、公園内にある建造物を鑑賞し、感じたことを交流することで、見方や感じ方を広げることができていました。

「絵を描くこと」「鑑賞すること」を通して、芸術的・文化的に価値の高いこの街の景観に親しみを覚え、子どもたちのよりよい創作活動へとつながっていくことを願います。

【児童生徒会選挙を終えて】(児童生徒会担当 林田・佐藤)

23日(水)に後期児童生徒会役員選挙が行われました。中学部2年生の2人が、それぞれ「一歩先へ!レベルアップ」(渡辺一輝さん)、「友情の架け橋ーみんなみんな大切な仲間ー」(長坂理沙さん)というテーマを掲げて、日本人学校をよりよくするための方策を考え、熱弁をふるいました。後期は、会長の渡辺一輝さん、副会長の長坂理沙さんの2人を中心にして、児童生徒会がより一層盛り上がっていくことを期待しています。新役員の任命は10月1日(木)の朝会で行われます。



【植田要峻さん、お元気で】(教職員一同)

本日をもって、小学部2年の植田要峻さんが転出します。最後の朝会では、全校の前ではきはきと立派にあいさつをすることができました。ブダペスト日本人学校での思い出を胸に、新天地でも元気いっぱいにご過ごしてくれることを願っています。お元気で!



【重要なお知らせ】(教務主任 吉田)

電話会社より10月5日(月)の5:00~17:00の間に2時間程度、保守点検のため回線が使えないという連絡がありました。何時からとはっきりとお伝えできないため、当日学校にお電話いただいた際に通じなかった場合には、緊急連絡網にあります各担任の携帯電話までご連絡ください。お手数をかけますが、よろしく願います。

【学校評価ご協力のお礼】（教科領域研究主任 甘利）

この度は、保護者アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。保護者の方々にご回答いただいた結果をもとに、本校教育の成果と課題を明らかにし、後期学校運営の計画を立案してまいりたいと考えています。また、自由記述欄についても、多くの方から貴重なご意見を頂戴しました。本日までの取り組みについて、客観的にふりかえる機会をいただいたことに感謝しております。

先の元気通信でもお知らせした通り、学校評価の報告は10月31日（土）の保護者全体会で行います。個人は特定されないよう配慮いたしますので、ご安心ください。また、それまでに本校教育活動についてご意見・ご質問がございましたら、引き続きいつでもご連絡ください。

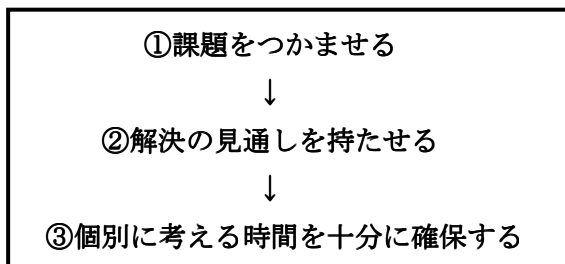
【研究授業③（1年国語…佐々木）】（1年担任 佐々木 教科領域研究主任 甘利）

小学1年生では、国語科で『ゆうやけ』という物語文を学習しました。この物語は、
（一場面）きつねの子が新しいズボンを買ってもらったので友達に気づいてほしいと思っている場面
（二場面）くまの子とうさぎの子と遊びに夢中になってズボンのことを忘れてしまう場面
（三場面）夕方になり、真っ赤な空を見てきつねの子の新しいズボンに気づく場面
（四場面）ゆうやけの下を長いかげぼうしを背にさんびきが肩を並べて帰って行く場面
と四つに大きく分かれており、児童が物語を追いながら、自然に自分の体験や経験と照らし合わせて登場人物の気持ちを考えられる教材です。

本教材では、児童が自分の考えを述べたり、相手の考えを聞いたりする中で、多様な意見があることを知り、グループで考えをまとめることを目標として学習を進めていきました。

四場面のお話の続きを考える学習では、自分の考えをワークシートに書いてから、グループで話し合い活動をしました。「さんびきがあしたのことをはなしている」「そらのはなしをしている」「ズボンのはなしをしている」とお話の続きは多様にありました。子ども達はグループで相手の意見を受け入れながら、上手に進めていましたが、たくさん考えたセリフの中からどのようにまとめたらいいか迷っているグループもあり、話し合い活動の難しさを感じました。（佐々木）

今回の実践では、子どもたち一人ひとりが、物語「ゆうやけ」の続きの話を豊かに想像することができました。これは、「自分の考えを持たせる」という点で、研究の成果を確認することができた場面でした。特に、



という手順の有効性が証明されました。

一方で、グループでの話し合いでは、なかなか意見を一つにまとめることができず、話し合いが停滞したり、話し合い以外の方法（ジャンケン・多数決など）で決定したりするグループが出てきました。

事後研究会の議論の中では、グループ学習の有効性を認めながらも、より効果的な運用方法を追及していく必要があることを確認しました。

今後1か月は、各教員が日々の授業の中で、グループ学習の効果的な運用方法を追究していきます。その上で、10月に実施される第4回の研究授業（太田）によって、グループ学習の効果的な運用方法を検証し、学校としての方向性を模索していきます。